あるヤドカリの唄

begin

本調子

工	上	尺	工		六		七	八	七	六	五	尺		尺
---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---

工		老	老	老	老		老	老	老	老		老	四	上	中	合
		と	お	く			と	お	く		は	な	れ	て		

四		四	四	四	乙		四	四	四	乙		四	上	中	工	尺		五
		い	ま	は			こ	こ	こ	に		い	る	け	れ		ど	あ

六	工			中	上	四		上	中	上		四	老					
				み	の			す	な	の		い	ろ	は				

合		老	四	上	四	老		合	合		王	尺	中	上	四			乙
		ず	つ	と	わ	す	れ	な	い									

合		王	尺	中	上	四	老	乙	合	工	五	工	尺	尺	中	尺		尺
										わ	た	し	は	ヤ	ド	カ		

工	工	五	工	尺	尺	中	尺	上		合	上	中	上			四		四
		り	う	み	の	ひ	び	き	を	な		つ	か			し		

老				老			老		老		工	五	工	尺	尺	中	尺	
											ひ	る	ね	し	て	い	た	

工	工	五	六	五	工	尺	工	工		合	上	四			合	四		四
		ら	か	い	が	ら	と	ま	ち	が		え	ら			れ		

老				老	乙			乙	合	工	五	工	尺	尺	中	尺		尺
										き	ず	い	た	と	き	に		

工	工	五	工	尺	尺	中	尺	上		合	四	上	四	合	四			四
		は	こ	の	し	ず	か	な	ど	こ		か	の	お		ば		

老		上				上				工	五	工	尺	尺	中	尺		尺
										と	も	だ	ち	も	で	き		

あるヤドカリの唄

begin

本調子

工	て
工	ひ
五	が
六	な
五	す
工	ご
尺	し
工	て
工	い
合	る
上	け
四	
合	
四	れ

老	ど
尺	い
工	つ
上	か
合	
合	
五	も
六	ど
工	っ

七	あ
六	の
五	う
工	み
工	に
合	
五	も
六	ど
工	っ

上	て
尺	な
工	み
上	に
合	
合	
合	
五	し
六	て
七	あ

中	あ
上	し
四	を
老	ひ
工	た
合	
五	し
六	て
七	あ

五	る
尺	く
工	う
五	み
六	の
工	に
上	お
上	い
工	す
五	な
六	の
七	い

上	ろ
合	
上	ちよ
四	っ
上	と
四	だ
六	け
五	お
工	も
中	い
六	だ

五	す
六	あ
五	の
工	こ
工	の
五	し
六	ろ
工	い
上	か
工	が
五	ら
六	の
七	い

上	ろ
合	
合	かわ
上	わ
中	て
上	て
六	
五	い
工	る
中	だ
六	ろ

五	か
合	
六	じ
五	ぶ
工	ん
工	も
五	そ
六	う
工	やつ
上	て
工	い
五	き
六	て
七	き

上	た
合	
合	
合	こ
上	れ
中	か
上	ら
四	も
六	そ
五	う
工	し
中	し
六	て

五	く
合	
工	ド
尺	カ
工	リー

あるヤドカリの唄

b e g i n

本調子

3/3

一、遠く 遠く はなれて
いまは ここにいるけれど
あの海の 砂の色は
ずっとわすれない

わたしは ヤドカリ
海の響きを なつかしむ
昼寝していたら
貝がらと 間違えられて

気づいた時には
この静かな どこかの場所
友達もできて
日がな 過ごしているけれど

いつか あの海に戻って
波に 足をひたして歩く
海の匂い 砂の色
ちよつとだけ思い出す

あの娘の 白い貝がらの色
変わって いるだろうか
自分も そうやって生きて来た
これからも そうしてく
ドカリー